

2023 年度:こども園自己評価の報告書

ともだちこども園

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	・豊中市の基本理念である「人とつながり生きる力の基礎を培う」に基づき、「違いを認め合い共に育つ仲間づくり～自己肯定感を育む環境づくり」を園内研究のテーマとし、子どもが主体的に活動し、自尊感情を高めていくにはどんな環境が必要なのかを自分たちの関わりも含め考えていった。 ・アドバイザー研修では研究テーマに基づき、講師を招き、子どもの姿から具体的な助言をもらった。子ども理解につながり、肯定的な関わりや声掛けを意識し、教育保育の取り組みに繋がった。 ・毎月行う公開保育で「豊中市教育保育ガイドライン」を活用し、教育保育内容や環境の振り返りを行い、環境改善を促進していった。
健康支援	・「年間保健計画」に基づき、保健指導や保健管理を行い、基本的な生活習慣の大切さを伝え、健康で安全な生活をしようとする意欲を育てた。 ・「ほけんだより」「配信アプリ」で感染症や健康についての情報発信を行った。 ・子どもの健康状態の把握をするため、子どもの様子を観察し、保護者、職員と丁寧に連絡を取り合った。 ・保健指導の一環として絵本などを用い、性やいのちに関する取り組みを行い、「一人一人が大切な存在であること」を伝えた。
安全指導・危機管理	・日々の出欠確認や療育等での受け渡しなど、所在の確認がしっかりとれるようクラスと事務所での連携の取り方などマニュアル化する。 ・毎月、施設の安全点検と避難訓練を実施し、危険箇所や不具合があった場合は修理修繕など行い、職員で共有し安全意識を持てるようにした。避難訓練では、想定した災害に対しての避難方法を検討し職員間で共有しながら行った。年 2 回人権平和センター合同の避難も行った。 ・1 月 17 日の避難訓練では、地震についての話や写真などを見ながら子どもたちと身を守る大切さについて話をした。その様子を玄関に掲示したことで、送迎時に親子で安全について話し合う姿が見られた。
食育の推進	・各クラス菜園活動に取り組み、畑作りや植え付け、成長や収穫の喜びを経験した。収穫した野菜でクッキングを行ったり給食に入れたりして楽しみ、食に対する関心が高まった。取り組みは玄関掲示するなどして、保護者にも伝えた。1.17 の集いでは、地震を想定した避難訓練の後に収穫した大根を使い、5 歳児が中心となってかまどでみそ汁を作り炊き出しを行った。 ・地域の取り組み「手作りおやつ講座」では、プランターで育てた野菜などを使って技能職員が中心となりご飯ピザを作った。親子で調理したり味わったりでき、いい体験ができたという感想が聞かれた。
子育て支援（在園児および地域）	・クラス懇談会や個人懇談、おたよりなどで教育保育の発信を行った。ふれあいカーニバル、保育参加では親子で活動を楽しんだり保護者同士が子育ての話をしたりする姿が見られた。 ・保護者講演会では、各クラスから保護者の現状や気になる姿など出し合い、子どもの気持ちに寄り添い子育てのヒントに繋がる内容を幼児教育サポーターの先生と検討し取り組んだ。保護者からは、子育ての参考になる、という感想が多く、その後の親子の関わりに子どもの気持ちを汲んだり待ったりする姿も見られている。 ・地域子育て支援センターでは、感染対策を続けながら誕生会やびよびよなどで園児との交流を持った。園の子ども達も地域の親子も楽しんで交流でき、交流の大切さを感じた。利用者の中には顔見知りになっている親子も

	多く、安心して参加する姿が見られる。 ・子育てサロンに5歳児が参加。子どもたちの自信につながり、地域の方にも喜ばれた。
インクルーシブ教育保育	・一人一人の子ども理解を深め、生活や遊びの中で友達とのつながり、ともに育ちあう教育保育を実践した。 ・「個別の支援計画」を保護者と共に作成し、画題や支援の仕方を具体的にしながら教育保育を進めた。 ・児童発達支援センター等と連携し、専門家からのアドバイスを受け支援の内容の充実を図った。
職員の資質の向上	・自己評価表を付ける中で自分の気づきを整理し、個々の面談等で実践に繋げていけるようやり取りを行った。 ・園内の公開保育では観察を行った職員間で意見交換を行い、子ども理解や保育内容の見直し、自尊感情を育てるための環境作りについて「教育保育環境ガイドライン」を活用しながら行った。 ・人権研修では、グループワークで伝統行事の理解を深め、行事の係に話し合いのまとめを引き継ぎ取り組みに繋がった。
幼保こ小中の連携・接続	・地域連携会議に参加し、克明小学校、箕輪小学校、第5中学校、翼、とよなか人権文化まちづくり協会と地域の情報を共有した。 ・近隣の学校への訪問では就学に対する期待が膨らむ機会となり、また各就学校からの訪問では、引継ぎを丁寧に行った。 ・近隣の園と5歳児が交流を持ち、一緒に遊び楽しかった経験と少し顔見知りになる機会を作ることができた。
評議員会	・3回の評議員会を持ち、園の取り組みや子ども達の姿を見ていただき、豊中市のこども園で大事にしている教育保育を感じていただいた。園からは子ども達の課題や具体的な取り組みを報告し、評議員からは地域の現状や課題など様々な意見が出され、情報や課題を共有できた。
その他	・児童養護施設翼の見学を行った。見学を終え、「外から見ると中は広く、家庭的な雰囲気だった」「ここから通っているんだ、とその子の生活を知ることができてよかった」「プライベートが守られていたり、職員と過ごす時間が多く作られているなど年齢に応じた対応がされていることが分かった」「将来を考え、伝えることや準備することなど丁寧に考えられている」など気付くことが多く、正しく知る機会となった。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
子育て支援	・保護者同士が園の行事を通して集まったり地域の保護者が園を利用したりする機会が増える中、子育てで孤立する家庭をつくらないように、園の職員が保護者に寄り添い、信頼関係を築いて子育てを共有し、園が安心安全の場になるよう努めていく。引き続き保護者間のつながりを持てるような取り組みを次年度も計画していく。
教育・保育の質と職員の資質の向上	・違いを認め合い、共に育つ仲間づくりをめざし教育保育を進めるため、子どもを正しく理解し肯定的に関わり、子ども達の自尊感情を高めていけるよう職員の人権意識を高めていく。

令和6年（2024年）3月31日

豊中市立ともだちこども園

園長名 藤井 典子